

議事録

|       |  |
|-------|--|
| 審議会等名 | つくばみらい市特別職報酬等審議会   |
| 開催日   | 平成29年10月3日（火曜日）  |
| 開催場所  | つくばみらい市役所 伊奈庁舎2階 第一会議室   |
| 出席者   | 出席委員 飯塚委員，齊藤委員，秋田委員，中島委員，青木委員<br>飯泉委員，丸山委員，<br>欠席委員 なし<br>事務局 齊藤総務部長，中島課長，片倉課長補佐，石井主査，<br>沖田主幹   |
| 議案    | つくばみらい市特別職報酬の見直しについて   |
| 議案概要  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・開会 午後1時30分</li> <li>・会長あいさつ</li> <li>・審議</li> </ul> <p>事務局は，第1回つくばみらい市特別職報酬審議会の中で，提出依頼のあった資料について，詳細に説明を行った。</p> <p>【質疑等】</p> <p>委員 報酬額の比較については，人口規模，予算規模での比較が主になってくるが，つくばみらい市民の一人あたりの所得も加味したらどうか。そういうものも検討の一つにしてはどうか。</p> <p>委員 財政状況の資料をみても，大きな数字でこれを掴むのは非常に難しい。類似団体とは財政規模も違うし，内容も違う。近隣の自治体と比較して決めていくのか，つくばみらい市独自の資料に基づき決めていくのか，この2つどちらを選択するかによってこれからの進め方があると思う。市独自の資料に基づいて考えれば，今，つくばみらい市の財政状況がどういう状態にきているのか。また，今後数年後にどういう状況に変化していくのか，把握する必要があると思う。一般企業では利益が出て景気が良ければ当然ベースアップしていかなければならないが，行政においてはベースアップしていく位置にあるのか。現在の財政状況を掘り下げて検討して，独自のものを</p> |

していく必要があると思う。

委員 他市と比較せずつくばみらい市独自のものと考えていく、市の財政状況に応じた案を考えていくのか、類似団体との比較、どちらを選択するかで変わってきてしまうと思う。私は、やっぱり同じような市と比較することがある意味一番説得力があると思う。市には格があると思う、市の格。例えば、ある市とつくばみらい市を比べたらどちらが格上か。格上の市長の報酬額を超えられないなどかあると思う。そういうところも議論して決めていくことになると思うが非常に難しい。上げることの話があるが、下げることもこの審議会の役割だと思う。ただ、今の報酬額は明らかに低いと思われる。

委員 基本的に考えられることは大きく分けて2つあり、1つは財政状況から見ていく考え方。これは数字ですから、特に財政は生き物でして、その街その街によって投資する場所によって変わってくる。また、社会構成によっても大きく変わってくる。今、つくばみらい市は学校建設にお金が使われている、それだけ若い人達が転入してきているということだと思うが、これを回収するには15年～20年かかる。その15年～20年、つくばみらい市が行政として持つか持たないか。逆に言えば、将来の担税能力のある方々で、その方々に投資しているとなれば学校も必要であろうと感じる。

もう1つが、先程委員からあったように、類似団体との比較及び市の格式。人口、財政力、報酬額等を見た時、市の格式が非常に大きい。または、市のポテンシャルがどれくらいあるか。つくばみらい市のポテンシャルがどれくらいあるのか。昔からある自治体と比べても、つくばみらい市の方がはるかにポテンシャルがあるのではと感じるが、報酬額ははるかに低い。適正な金額というものを見ていかなければならない。その適正な金額をはじき出すために何を見ていくのかというと、数字的な裏付け、財政的な裏付けと同時に市の格付けはどこにあるのか。

質問 財政上の問題として、財政力指数、経常収支比率等、今後どう推測するか。

事務局 財政力指数については、1に近いほどいい数字です。当市で見ると、0.8ということで平成23年、24年に比べると財政力としては良くなっていると思われます。

経常収支比率ですが、これは経常的な負担を表している数字で、国では75～80%くらいが理想と言われていますが、実際に75%程度の市町村はほとんどないと思われます。当市の94%という、それだけ自由に使える部分のお金が少ないというような数値になっており、余裕を持たせるにはもう少し下の数字が良いです。実質公債費比率ですが、平成28年までは減少していますが、学校建設等をしましたので、平成29年、30年あたりから徐々に数値が増えていくことが予想されます。将来負担比率ですが、平成24年、25年あたりから増加しています。増加している理由としては、学校建設などの大型事業等を実施する中で借入をした部分があります。当市の財政規模ということですが、一般会計では平成26年から200億を超えています。これは陽光台小学校、富士見ヶ丘小学校の大きな事業を実施している状況もあります。通常の予算規模としては、平成24年、25年あたりの190億程度がつくばみらい市の通常の予算規模ではないかと感じています。

委員 経常収支比率も非常に上がってきています。80%程度が一番良いと言われていたが、年度によって増減はあるにせよ、これを大幅に超えてしまうと危険水域ではないかと心配になる。

委員 今、つくばみらい市は社会投資をしなければならない部分が非常に多い。それを回収するには15年、20年かからないとできない。その間も人口は増えていく、増えることはそれだけ社会資本を投下しなければならない。財政上から言うと、にこやかにできる数字ではないと思う。ただ、報酬額がどうなるか分からないが、3人の特別職の報酬を上げたとしても、年間200、300万の増加と思う。市民の方々が豊かな気持ちを持たれていないのに、1円でもアップすることに市民感情はどう動くか。

委員 全体的にみると職員給与との差、副市長の方が低くなっている。そういう数字だけをみると全体の中で非常に低い、近隣に比べ低いなという気がする。活動の原動力になるので、もう少し上げるのは妥当かなと。ただ、市民の方々、議員の方々が納得できるような、説得力のある説明ができるのであれば決して上げて問題ないと思う。

|  |  |
|--|--|
|  | <p>委員 副市長の報酬が職員より低いと言うことは、組織の中でいびつです。どこかでこのいびつを解消しないとイケない。</p> <p>委員 住民サービス，市民に対してのサービスが一番だと思う。それがきちんと今後も健全にできていくのかどうか。住民サービスが低下しなければ市民は納得してくれると思う。市民の方に負担を押し付けて，片や上げるのはなかなか説明がつかない。</p> <p>委員 市長の動静，年間でどれくらい仕事をして，どれくらい休んでいるのか。広報紙をみると，ほぼ毎日勤務している。それほどの激務なのでは。</p> <p>委員 市長は，365日，24時間市長。</p> <p>委員 市長の報酬と議員の報酬を比較すると，議員の勤務は公的なものは年間80日くらい，市長は365日，それを報酬で割ると市長の方がはるかに低い。総合的に加味していく必要がある。</p> <p>委員 一番に目に見えるのは，他市との比較。近隣の市，同じ人口規模の市と比べても，これだけ成長力も増えているし，人口も増えている，業務量の増えている。</p> <p>質問 市長の報酬額は，県内で何番目。</p> <p>事務局 最下位です。</p> <p>委員 合併して10年しか経っていないけれど，つくばみらい市はどのくらいのランクにあると思うか。</p> <p>委員 個人的に思うと，県内44の市町村の中で，15～20番くらいかなと。</p> <p>委員 県で出される統計資料を参考にすると，中間くらいかなと思う。</p> <p>委員 だとしたら，報酬額が最下位という感覚がなくても言い訳です。</p> <p>委員 TX沿線地域は発展が著しいと言うか，ますます発展が見込まれる。常磐線沿線の自治体に比べるとつくばみらい市の方がずっと魅力を感じる。人口規模では負けているが，将来性から行くとつくばみらい市はまだまだポテンシャルがあると思う。</p> <p>委員 つくばみらい市はまだまだ発展します。この発展に市の財政がついていくのかいかなのか心配です。どんどん投資しなければならない。</p> |
|--|--|

|       |  |
|-------|--|
|       | <p>会 長 次回，本日の議論を整理していきたい。事務局においては，本日の議論を踏まえ、追加資料の提出をお願いしたい。</p> <p>閉会 午後 3 時 1 5 分</p> |
| そ の 他 | 傍聴人 0 人  |